

令和2年度事業報告書

I 基本方針への対応

基本方針である、森林の中で自然との共生を学び、体験し、様々な形で森林とふれあうライフ・スタイルを創出するフォレスト・エコ・ライフの推進、実践を図り「自然との共生」思想の普及に寄与することを実現するため、公の施設の指定管理者として管理している「ふくしま県民の森」において、各種事業を展開した。

特に令和2年度は、新型コロナウイルス感染症対策として、県からの要請に即して対応するとともに、指定管理者として状況に応じた対策を徹底しながら運営した。

II 令和2年度 財団中長期計画（平成25年度～令和5年度）の推進状況

(1) 森林学習施設区域利用者数等

新型コロナウイルス感染症対策として、休業に伴い森林学習施設区域を閉鎖したことや、様々な活動が自粛するよう求められ春季間の学校の利用が大きく減少したことなどから、森林学習施設区域における利用者数は目標を達成できなかった。

ア 森林学習施設区域利用者数 (単位:人)

年 度	区 分	目標値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成25年度	計画始期		12,303	
令和元年度	前年度	13,300	14,109	106%
令和2年度	当年度	13,900	6,464	46%

イ 森林館の入館者数 (単位:人)

年 度	区 分	目標値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成25年度	計画始期		3,313	
令和元年度	前年度	3,300	3,343	101%
令和2年度	当年度	3,700	2,198	59%

ウ 学校・団体利用者数 (単位:人)

年 度	区 分	目標値	実 績	達成率 (実績/目標値)
平成25年度	計画始期		5,108	
令和元年度	前年度	5,230	4,317	83%
令和2年度	当年度	5,490	2,976	54%

(2) オートキャンプ場区域の利用者数等

新型コロナウイルス感染症対策として、県から休業及び利用制限の要請を受けて対応するとともに、指定管理者として利用制限を行ったことから、オートキャンプ場区域の利用者数は目標を大きく下回った。また、日帰り温泉の利用者数も、休業及び感染症対策としてのサウナ営業休止の影響と、一か月間の温泉ろ過施設の更新工事に伴う休止により、目標値を大きく下回った。

ア オートキャンプ場利用者数（料金対象外の幼児を除く）（単位：人）

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率（実績／目標値）
平成 25 年度	計画始期		25,709	
令和元年度	前 年 度	31,500	40,292	128%
令和 2 年度	当 年 度	32,000	28,186	88%

イ 日帰り温泉利用者数（単位：人）

年 度	区 分	目 標 値	実 績	達成率（実績／目標値）
平成 25 年度	計画始期		13,598	
令和元年度	前 年 度	14,200	14,338	101%
令和 2 年度	当 年 度	14,400	9,423	65%

Ⅲ 指定管理者としての「ふくしま県民の森」の管理運営状況

「ふくしま県民の森」として、施設が設置目的に沿って利用され、公平で質の高いサービスが提供できるよう、「ふくしま県民の森の管理に関する基本協定」や関係法令等を遵守するとともに、諸規定に基づき適切な運用に努めた。

また、利用者が安心して利用できるよう、施設の維持管理を行うとともに、災害等の危機管理の徹底を図ったほか、企画・運営能力を発揮し利用者が楽しめる事業等を展開した。

さらに、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が大きな問題となる中、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りながら、可能な限り利用者の期待に応えられるよう対応するとともに、収入の確保に努めた。

1 オートキャンプ場管理運営事業（公益事業）

オートキャンプ場収入（単位：千円）

年 度	収入金額	備 考
令和元年度	101,925	利用者数 40,292 人
令和 2 年度	78,406	前年比 77% 利用者数 28,186 人 前年比 70%

2 県民の森管理受託事業（公益事業）による施設の管理・運営

森林学習施設区域（52.1ha）とオートキャンプ場区域（39.4ha）合計91.5haの「ふくしま県民の森」の施設と緑地の管理及び運営について、年間を通して円滑に行った。

（1）施設管理

① 森林学習施設区域

森林館、森林学習館、水道施設、温泉施設、駐車場等を計画的に管理した。

② オートキャンプ場区域

ビジターセンター、サテライトハウス、コテージ、トレーラー等を計画的に管理した。

（2）緑地管理

① 森林学習施設区域

芝生管理や除草、枯損木の除去等を計画的に実施した。

② オートキャンプ場区域

道路法面の下刈り、テントサイト周辺の樹木整理等を計画的に実施した。

3 施設の高規格化、老朽化対策

（1）福島県の財源による対応（県民の森管理受託事業ほか）

・ビジターセンター

パネルヒーター漏水修繕、温泉ろ過設備更新、灯油ボイラー室内配管修繕、灯油ボイラー室内貯湯槽メンテナンス

・コテージ

スズメバチ駆除、防蟻処理、浴室換気扇更新、アプローチ路手すり腐朽部修繕

・常設トレーラー

床張り替え窓修繕、排水管重点メンテナンス

・テントサイト等

サテライトハウス給湯設備更新、野外テーブル修繕、遊歩道木部修繕

・森林学習施設区域

水道設備・電源設備修繕、遊歩道修繕、森林館ガラス窓修繕

・その他

木質チップボイラー故障箇所重点修繕、木質チップボイラー棟ポンプ更新

（2）財団の財源（オートキャンプ場管理運営事業（公益事業））による対応

・ビジターセンター

エアコン更新、レクチャーホールAV設備修繕、温泉浴室木部壁修繕、露天風呂漏水部修繕、温泉ろ過機循環配管洗浄作業

- ・コテージ
台所レンジフード更新、浴室換気扇更新、エアコン更新、薪ストーブ重点メンテナンス・修繕、テラス修繕、スズメバチの駆除、建具等修繕、カメムシ対策捕虫器設置
- ・常設トレーラー エアコン重点清掃
- ・テントサイト等 テーブル・イス修繕、雨水排水設備修繕
- ・森林学習施設区域 遊歩道修繕
- ・不動沢駐車場 トイレ水源整備

4 利用者の安全確保対策

- ・強風、豪雨等の自然災害による被害発生防止対策（巡視、誘導等）
- ・大型野生動物（ツキノワグマ、イノシシ）対策のための巡回強化、監視カメラによる観察、森林下層木の伐採
- ・スズメバチの巣の駆除やアリ駆除等虫対策
- ・新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン作成及び感染対策の徹底
- ・定期消防訓練の実施

IV 「県民の森管理受託事業」以外の受託事業（公益事業）

財団の基本理念に沿った事業を、計画通り受託し実行した。

1 福島県農林水産部委託事業

- (1) もりの案内人養成事業
もりの案内人養成講座の運営
- (2) 森林ボランティアサポート事業
情報誌の発行、森林整備道具貸出、スキルアップサポート、森林ボランティア育成研修、情報発信
- (3) 森林ボランティアリーダー育成事業
ボランティアリーダー育成講座の運営

2 福島県こども未来局委託事業

- (1) 自然あそび事業
主に未就学児を対象とした外遊びや、自然とのふれあい体験
- (2) 子どもと青年の異世代交流事業
若い世代（県内大学生）の指導力強化のための、自然遊びを通じた子どもとのふれあい活動研修事業

V 自主事業の実施

1 オートキャンプ場関連事業

(1) 物品販売・貸付・カフェ事業（収益事業）

キャンプ場利用者の利便性向上のため、物品販売、貸付、カフェの事業を実施した。新型コロナウイルス感染症対策としてキャンプ場利用を制限したことに伴い、収益事業収入は減少した。特に、カフェは席数を半分にし、物品貸付はテント等の定番レンタル品を貸付休止にしたため、前年度を大きく下回った。

事業収入 (単位：千円)

年 度	区 分	ショップ売上 (物品販売)	カフェ売上	物 品 貸 付
令和元年度	前 年 度	14,436	3,160	3,618
令和2年度	当 年 度	10,951	1,715	1,244

(2) F E L制度事業（公益事業）

F E Lメンバーズ登録の特典に対する理解が深まり、また、オートキャンプブームによる平日利用増に伴い、新型コロナウイルス感染拡大の中でも前年度並みの登録者数となった。

新規登録及び更新の人数 (単位：人)

年 度	区 分	登 録 者 数	前年からの増加率
令和元年度	前 年 度	1,529	
令和2年度	当 年 度	1,480	97%

2 ビジターセンターにおけるサービスの提供

(1) 日帰り温泉の提供（収益事業）

日帰り温泉の利用者数は、休業及び感染症対策としてのサウナ営業休止の影響があったことと、一か月間の温泉ろ過施設の更新工事に伴い休止したことで、大きく減少した。

日帰り温泉利用者数（再掲） (単位：人)

年 度	区 分	実 績	前年からの増加率
令和元年度	前 年 度	14,338	
令和2年度	当 年 度	9,423	66%

(2) キッズプレイス提供（ビジターセンター内）

新型コロナウイルス感染症対策のため、4月下旬より休止した。

(3) 森林との共生関連図書の自由閲覧（ビジターセンター）

3 環境教育事業（公益事業）

- ・ 災害対応キャンプ普及の活動を福島大学と連携して実施した。
- ・ F E L助成金交付事業として、N P O法人福島県もりの案内人の会に助成金を交付した。
- ・ ふくしま生き物調査発表会を開催し、主に森林ボランティア向けに、福島大学の学生が、県内の生き物の調査結果を発表する機会を提供した。

4 福島県の森林再生に向けた取り組み

（1）木質チップボイラーの運用

福島県が設置した「木質チップボイラー」の適切かつ効果的な運用を確立するため、関係機関と連携して、安定的に利用できる良質な木質チップの確保に努めるとともに、導入を検討する機関の視察受入を行った。ボイラー循環ポンプ故障により7月より県工事終了までの期間の運転休止となったが、その期間に重点メンテナンスを行った。

（2）ふくしま森林・山村多面的機能発揮対策協議会事務局事業

林野庁の森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業の福島県協議会（窓口）の業務を担い、森林整備等を実施する県内11の民間団体へ、交付金の交付事務や指導、国や県との調整を行った。

5 植樹緑化事業（公益事業）

サクラ植栽事業（平成26年度まで実施）で植栽したサクラの適切な管理を行うため、施肥や除草等の維持管理を行った。

6 講師等派遣事業

- ・ 大玉村教育委員会からの依頼により小学生に講話を行った。
- ・ 林野庁主催の親子向けシンポジウム(オンライン配信)の講師を派遣した。
- ・ もりの案内人養成講座の講師を担った。

7 調査・研究事業

「自然環境基礎調査事業」として、イノシシ・クマの生態調査などを行った。森林館にクマの生態についてのパネルを設置し通年で一般客に向け情報提供した。

また、森林環境教育での活用を目的に、人口池での生き物調査を行った。

8 地域振興と社会貢献

(1) 地域振興

① 県内観光地等の振興

県内各地の観光地や近隣の観光施設などを、フロントを中心に案内や紹介対応を行った。

② 授産施設支援

ビジターセンター、ショップ等における県内授産施設製品の販売を行った。

③ 地場製品の販売促進

農産物を中心とした地元製品の販売、地元食材等の紹介、活用を行った。

(2) 社会貢献

① 令和2年度学校教育利用割引

フォレストパークあだたらオートキャンプ場利用者に対する財団独自の割引を行った。

・学校教育利用割引率 50%

② 仮設住宅避難者への温泉無料提供

大玉村にある仮設住宅や借上げ住宅に居住する避難者を対象として、8月と1月及び3月を除く毎月1回、フォレストパークあだたら温泉の無料提供を行った。

・利用者数 延べ 28人

9 令和2年度新型コロナウイルス感染症への対応

(1) 県からの要請による休業等

①休業：令和2年4月19日（日）～5月19日（火）

②受入れ制限：5月20日（水）～6月18日（木）県内の利用者のみ受入れ

(2) 財団の対策（新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン等）

①予約の制限と管理

○ 受付時や温泉施設利用における密集状況発生防止のため、提供施設数を5月～7月は50%、8月以降は70%に制限

○ 8月まで、居住地制限に対応できるよう電話（住所を確認）での予約のみ実施

○ 9月から、ネット予約を再開

②施設の使用制限等

○ 室内子ども遊び場の閉所

- 温泉施設のサウナの休止
- ロビー及びカフェの座席とテーブルの一部撤去（密集防止）
- テント、シュラフ、毛布等のレンタル休止
- ③ ビジターセンターでの対応
 - 受付時には、密を避けるためお客様1名で受付、マスクの着用、手指の消毒の呼びかけ、並ぶ際に間隔を確保
 - フロントカウンターやショップレジ等に透明シート設置、換気の実施、受付時に対応人数を増員、利用説明資料の改善
 - 温泉施設では、脱衣所の換気、入場者数の調整（空いている時間への誘導、下足置き場の一部封鎖、脱衣籠の一部撤去）
 - 定期的な消毒の実施
- ④ その他
 - 予約の際、電話でコロナ対策を説明、ホームページで呼びかけ
 - コテージ、トレーラーハウスの消毒強化
 - テントサイトのサテライト内洗面所への石けん配置 など